

常総鬼怒川水害被害への支援活動を開始しました！

9月15日・17日・19日・20日の4日間、今般の常総市鬼怒川水害に関する第1次支援活動を開始、多くのご協力をいただきました。期間中、合計60名の方にお越しいただき、計2,295枚の雑巾・タオルと、いばらき未来基金の「juntos(一緒に)」募金への寄付金として合計80,651円の寄付金をお預かりしました。こちらは9月21日に、徳田代表をはじめとする市民大学スタッフが、茨城NPOセンター・コモンズ常総事務所(たすけあいセンター Juntos)へ届けました。また、第2次支援活動として、被災者のみなし仮設入居後も視野に入れた継続的な支援を前提に、避難所等で行う炊き出し・足湯・茶話会などの活動を通して情報を収集・集約する取り組み「Juntos! マッチング・プロジェクト(JuMP)」をたちあげ、活動を実施しております。引き続きのご協力をお願いいたします。



支援活動は始まったばかり。これからが正念場です。

DET(障害平等研修)を通して「ともに生きる」を考える



さまざまな立場の人たちが活発に意見を交わしました。

9月5日、『『障害』ってなんだろう？～誰もが参加できる社会をともにつくるために～』が開催されました。茨城県内で最初の「障害平等研修(DET: Disability Equality Training)」ファシリテーターである有賀絵理さんによる様々なワークを体験しながら、「障害」はどこにある？「平等」ってなに？という問いを、参加者どうしの意見交換を通して共有しました。障害は、障害「者」にあるのではなく、私たちをとりまく環境、そして、私たちの心の中にあります。自分の中のバリアに気づき、それを取り払うことは、なかなか難しいけれど、このように、風通しよく、様々な個性を持つ人々が出会い、語り合い、交流することができる場を、ひとつひとつ積み上げていくことが、平等で、生き心地のいい社会をつくっていく大きな力になっていくのですね。

草加市市民活動センターの視察団・30名がご来校！

9月24日、協働によるまちづくりを実践するための拠点施設・草加市市民活動センターから、約30名の方々が視察にいらっしゃいました。今回の視察は、「どのように講座の企画・運営がなされているのか」を、つくば市民大学の先例から学ぶためのもの。徳田代表幹事からの沿革紹介のあと、少人数のグループに分かれて「質問」をつくり、それをもとに質疑応答を行うという、市民大学お得意のワークショップ形式で、それぞれの「まなびあいの場づくり」について話し合いました。参加者からは「活動をしていて楽しいですか？」という、直球な質問も飛び出し、徳田幹事が思わず返答に困る場面も(笑)。もちろん、楽しいです！楽しくなければ、なにかが間違っているはず。みなさんに「市民大学らしさ」「場づくりの楽しさ」をおみやげとして持ち帰っていただければ幸いです。



「まなびの場」とおして、互いに連携できたらいいですね！

つくば市民大学はこんな人たちがやっています！

～ 小池容子さん ～



つくば市民大学の発展・成長のために、定期的に会議を開き、熱心に活動方針を話しあい、講座企画・運営を先頭となって引っ張ってくれている5名の幹事のみなさん。

普段はなかなかオモテに出ることはありませんが、「市民大学ってどんな人たちがやっているの？」という会員のみなさまの素朴な疑問にお応えして、これから数回にわたって、幹事の方々のプロフィールをご紹介します。

トップバッターは、今年の総会で選任された、ニューフェイス幹事・小池容子さんです。

●1976年生まれ 新潟県出身

●好きなこと

旬の素材で料理すること、昔からの手仕事を試してみることに。

●市民大学以外の活動

ふだんは「つくば草の根はりきゅう院」スタッフ。

毎月一回、自宅兼はりきゅう院のスペースを使ったコミュニティーマーケット「まめいち」を主催しています。

ただ買い物をするだけでなく、売る側と買う側が「つながる」場になるよう、各種体験の時間を作るなど仕掛けづくりに取り組んでいます。

●市民大学で企画した講座

共催企画・イマココ(今ここにある暮らしからつなげる未来)を他の

メンバーと一緒に運営しています。

足かけ2年にわたり、14回開催。リピーターも多く、毎回好評を博している人気講座に育ちました。次回は12月に開催します。

●市民大学へヒトコト

「まなぶ」に「つながる」が加わると何倍も面白くなるということ、そして、企画など「つくりだす」楽しさを、つくば市民大学での体験を通して気づきました。

自分の経験を基に、特に初めての方にも足を運んでもらえるようなきっかけを作っていきたいです。

●個人的な目標

3日坊主になりがちな日記を続け、反省上手になりたい。

また、庭に設けた畑を充実させ自給率を上げていきたいです。

常総地域豪雨水害への 支援活動を実施しています！

このたびの台風18号による豪雨水害で被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。ユニベルシタスつくばでは、以下のとおり、被災地への支援活動を実施しています。

■Juntos! マッチング・プロジェクト(JuMP)

高齢者・障害者・外国人・ひとり親家庭等、さまざまな困り感を感じている方々への、みなし仮設入居後も視野に入れた継続的な支援を前提に、各種支援団体が避難所等で行う炊き出し・足湯・茶話会などの活動に参画することを通じて、情報を収集・集約する取り組みです。災害救援系の各種団体、茨城県内の市民活動団体と連携・協働して実施するプロジェクトの事務局機能を担っています。

■RQ+JuMP 合同足湯隊

一般社団法人RQ災害教育センターが設置した「RQ常総」と連携し、避難所や地域を巡回して「足湯」を行っています。

■活動への支援金を受け付けています

上記活動への支援金(被災者に配分される義援金ではありません)を郵便払込にて受け付けています。口座記号番号:00120-0-360976、口座名称:ユニベルシタスつくば。通信欄に「JuMP 支援金」と明記くださいませ。

ご支援・ご協力をお願いいたします。

代表幹事・徳田の「オススメの一冊」

関西学院大学災害復興制度研究所・東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)・福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク(SAFLAN)編『原発避難白書』(2015年9月・人文書院)

「毎週1冊、ラジオでの10分間のトーク」から「3カ月で1冊、600字のコラム」に引越したというのに、編者名だけで2行も使ってしまったら、もうスペースがないじゃん！という感じですが、それでもご紹介したいのがこちらの『原発避難白書』です。

「なぜ国は、調べないのか。ならば調べる、私たちが。」とのオビが示す通り、11万人を超える「原発避難」の現状と課題を、ジャーナリスト、弁護士、支援者、当事者、研究者などが結集し、民間の力によって浮き彫りにした労作です。

あの日を境に、omSvとか、okmとか、○○区域とか、さまざまなラインによって人々が分断され、葛藤や対立、軋轢や反目もたらされてしまいました。しかし、それらを修復していくのもまた、私たちです。その際に何よりも重要なのは、「子ども・被災者支援法」の基本理念でもある、「居住するにせよ、避難するにせよ、帰還するにせよ、いずれの判断も権利として尊重される」という考え方でしよう。

この原則と、本書によって詳らかにされた事実とを携えて、支援の継続と未来の創造を図っていきたく思います。(徳田)

スタッフよりヒトコト

つくばのとなり街・常総市が未曾有の水害に見舞われました。発災直後こそ、大きなニュースとなりましたが、1ヶ月以上経過した現在、次第に関心も薄れ、支援が行き届いているとはいえない状況が続いています。そんな中でも、「常総のためににかきたい」「私にできることはないか？」と、出番を探し続けている方々がいます。つくば市民大学は、被災地と支援者を「つなぐ」場として、活動開始しております。ご協力をよろしくお願いたします。(とこり)

つくば市民大学

〒305-0033 つくば市東新井15-2 ろうきんビル5階

TEL:029-828-8891 Fax:029-828-8892

e-mail: info@tsukuba-cu.net Twitter: @tsukuba_cu

web サイト・Facebook: 「つくば市民大学」で検索